

# 三間町の米作りを継承するための課題

1年4組 松本 成央 1年3組 岡山きらり 1年3組 桑原 美羽  
1年3組 谷口 芽生 1年1組 松本 直樹 1年1組 吉岡 大我  
指導者 清川 彩

## 1 課題設定の理由

現在の農村を取り巻く環境は、過疎化、高齢化、農業の担い手不足など問題が山積しており、三間町も例外ではない。このような中で、約420年続くと言われる三間町の歴史ある米作り<sup>\*1</sup>を次世代にも継承するためにはどのような対策を行っていくべきか、地域の方たちと協力し、考えていきたいと思い、この課題を設定した。

## 2 仮説

米作りを継承していくためには、農業に従事する移住者を増加させる方策を推進するのが効果的なのではないか。

## 3 研究の方法

- (1) アンケート調査 三間町全域（20集落）の農家43名から回答を得た。
- (2) 聞き取り調査 アンケート結果から出た疑問点について、農業の携わる方に伺った。

## 4 結果と考察

### (1) アンケート調査

#### ア 自分の農地の今後

「あなたが管理している田畑は、後継者がいますか」という問いに対して、後継者がいると答えた人が53%であった（**図1**）。しかし、自由記述欄には、「その土地で米作りをするかはわからない」と答えた人が複数いた（**図2**）。

#### イ 三間町の米作りの今後の予測

「三間町全体の米作りは、あなたの次の世代ではどうなると思いますか」という問いに対して、「衰退する」と答えた人が70%であった（**図3**）。そのように感じる理由として、担い手不足の他に、米の安価が続いていることに加え、燃料費高騰などの影響から、「米作りでは食べていけない」という意見が複数あった。

「発展する」と回答した人の理由として、法人化による集約や大規模経営など、「農業形態の変化への期待」の声が多かった。

#### ウ 三間町の農業や自然環境の維持・発展のために期待する対策

期待する対策として、後継者の育成をすることが課題解決につながると考える人が多かった（**図4**）。しかし、自由記述欄には、若者が就農するためには、米の低価格や農業機械の調達面など、農業で安心して食べていける仕組みが必要だという声が複数あった。

#### エ 自由記述

三間町の農業科環境、将来について感じていることについての自由記述では、米価の下落や燃料費高騰などの理由で米作りだけで食べていくことが困難になっており、経済的な安定を確保することを課題に挙げている人が多かった。また、地域の自然環境への愛情を感じる

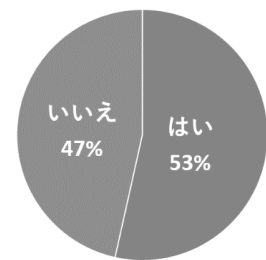


図1 後継者はいますか

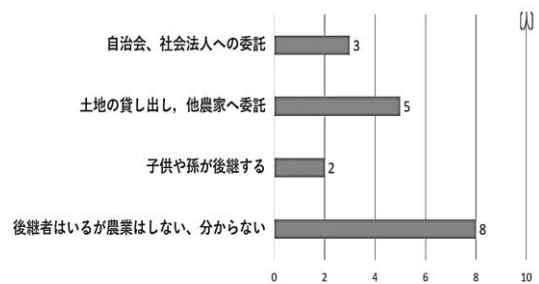


図2 後継者に関する自由記述

回答が多かった。

## (2) 聞き取り調査

アンケート結果から、三間町で長年農業に関わる安岡賢司氏に伺い、以下の回答を得た。

三間町は、個人農家がほとんどで、一部、集落営農により

機械を共同で使用するなどしている。兼業農家は、農業以外の仕事で得た賃金で米づくりをしている、という状態がほとんどで、専業農家に土地を貸す人もおり、専業農家の規模が拡大している。専業農家は、米の他にキュウリ、サトイモなどの野菜を育てている。個人農家には、補助や支援はあまりなく、国としては機械の共同使用に補助金を出すなど、集約する方向で進んでいる。若者には農業に希望を持ってもらいたいが、農業一本で生活できない現状を何とかしなければならない。一番の課題は、米の安価である。田んぼは一時的なダム役割があり、災害から集落を守ることにつながり、耕作放棄地が増えれば、有害鳥獣の住処にもなる。米作りを残す方法として、退職者に入ってもらえるのも一つの手かと思う。

## (3) 考察

仮説では、農業に従事する移住者の増加を考えたが、経済的安定が見込めない状態では、移住しようと思う人はいないだろう。また、宇和島市は新規移住説明会を開くなどして、移住者募集しているが、現在のところ移住者は少ない\*2。多くの移住は見込めない中、三間町の米作りを継承するために、私たちは、次の方向性を考えた。

ア 退職した人を含め、兼業で米作りをする人を増加させる。「伝統ある米作りを地域で守る」という理念で、専業農家ではない農業従事者を増やし、大規模化が困難な小さな田んぼの管理も行う。

イ 地域単位で所有する農業機械を充実させて、個人の経済的負担を減らす。農業をするにあたって避けられない費用面の心配を軽減する。

## 5 まとめと今後の課題

今回の調査により、米づくりだけで生活を成り立たせることは難しいこと、後継者確保への期待が大きいこと、専業農家の規模は大きくなっていることが分かった。今後の農業は個人で進めるのではなく、国や県、地域の人たちとともに協力して行っていくことが大切だ。三間町の風景は、田んぼを中心とした里山である。米作りを守ることが、三間町の里山環境を守ることにつながると、私たちは考えた。今後は、市役所の方にもお話を伺い、政策面への理解を深めて、さらに適切な対策を考えたい。

## 謝辞

本研究を進めるにあたり、安岡賢司様をはじめ、三間町の農家の方々にご協力いただきました。心から感謝申し上げますとともに今後のご発展をお祈りして謝辞とさせていただきます。

## 参考文献

\* 1 三間町特別栽培米生産組合 HP <http://www.mimamai.net/?mode=f6>

\* 2 宇和島市役所 HP <https://www.city.uwajima.ehime.jp/soshiki/21/>

\* 3 「三間の田んぼ環境調査」 安岡慎之助, 玉川諒征, 藤堂大空, 丹下聖士 2021 愛媛県立宇和島東高等学校 SSH 生徒課題研究論文集

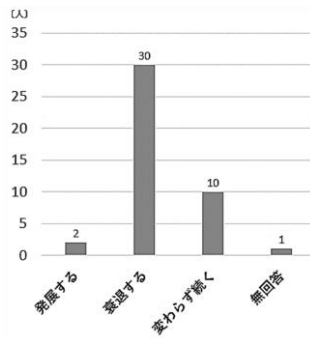


図3 三間町の米作りの次世代

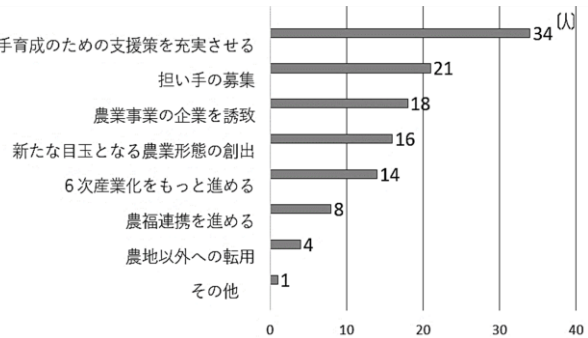


図4 期待する対策(複数回答可)